

報告概要

本報告は、N.シーニアと R.トレنزのあいだで 1843 年に行われた論争が貿易理論史に与えた影響を考察する。国際経済学あるいは貿易論の事実上すべてのテキストブックで説明される「リカード・モデル」が実際には D.リカードの理論とは異なっており、J.S.ミルによって変型された理論であることは、すでに行沢健三や R.ラフィンの研究によって明らかにされている。しかしながら彼らの論点は「4つの魔法の数字」の解釈という狭い視野に限定されていた。本報告は、ミルがリカードの価値論をどのように転換したのかというより本質的な問題に視点を移し、相互需要説を通じたミルの需要供給価値説への転換が 2 国 2 財の枠組みに囚われることによって生じたこと、ミルの『経済学試論集』刊行の前年に行われたシーニア vs トレンズ論争で争われたのがまさにその論点であったことを示す。